



## ノーベル・プライズ・ダイアログ東京 2022 に登壇しました (2022/10/23)

テーマ：Water Matters

会場：パシフィコ横浜会議センター

URL：[https://www.jsps.go.jp/j-nobel\\_prize\\_dialogue/index.html](https://www.jsps.go.jp/j-nobel_prize_dialogue/index.html)

2022年10月23日に「ノーベル・プライズ・ダイアログ東京2022」が、ノーベル・プライズ・アウトリーチ AB、独立行政法人日本学術振興会により主催されました。このイベントは、ノーベル賞受賞者、世界的に著名な研究者、政策立案者、有識者などが一堂に会し、社会的に関心や影響のあるグローバルな課題について語り合う、分野横断的な公開シンポジウムです。今回は「Water Matters 水から考える持続可能な未来」と題し、水が地球上の生命や人間活動とどのように関わっているのか、そして、この最も貴重な資源をどのように守っていけばよいのか、次の世代のために地球の水を賢く管理するという使命に挑むにあたり、創造性を最大限に発揮する方法についてなど、様々な角度から考えることを目的としていました。

一連のディスカッションでは、テクノロジーと水管理システムが、将来的に公平な分配を確保するためにどのように役立つか、川や湖などの淡水域から未踏の深海までの生態系全体の水質汚染がもたらす壊滅的な影響にどう対処すればよいのか、また、世界中の人々にとって、津波や高潮などの自然災害に加えてますます身近な脅威になりつつある洪水や干ばつ等の気候変動から我々人類を守るにはどうしたらよいのかといったことについて活発な議論が行われました。

当研究所からは、今村文彦所長（津波工学研究分野）と泉貴子准教授（国際防災戦略研究分野）が「防災に向けて」と題したセッションにパネリストとして登壇しました。このセッションのモデレーターを竹内佐和子客員教授（東京音楽大学）が務められ、海外からはヘンク・オヴィンク氏（オランダ王国国際水資源問題担当特使）がパネリストとしてオンラインで参加されました。パネルセッションでは、防災に関する新たな科学技術の取り組み、気候変動と防災に関わる国際的な重要な枠組や取り組み、また、そのような枠組を実現するためのコミュニティレベルでの取り組みや課題について議論が交わされました。

このイベントには、これまでのノーベル賞受賞者3名（物理学賞、化学賞2名）が対面にてご出席されるとともに、4名（化学賞、物理学賞、生理学・医学賞、経済学賞）がオンラインにて、それぞれの突出した研究について発表およびパネルディスカッションに参加されました。

東北大学からは、上記2名に加え、エイムズ・シェリル・リン准教授（大学院農学研究科）と稲垣史生教授（大学院理学研究科地球惑星科学専攻）が、それぞれ「生物多様性の保全」と「気候変動への取り組み」と題するセッションに登壇しました。

気候変動の影響により、洪水などの水関連の災害が増加傾向にある状況の中、こうした水関連災害への対応・防災に関する分野横断的な研究や議論はますます重要になっており、当研究所の果たす役割にも大きな期待が寄せられています。

文責：今村文彦（津波工学研究分野）、泉貴子（国際防災戦略研究分野）  
（次頁へつづく）

